

禁煙外来患者に対する抑肝散加陳皮半夏のPOMS検査を用いた評価

長谷内科医院（神奈川県） 院長 長谷 章

当院の禁煙外来に受診した患者5例において、ニコチン離脱症状としてのイライラ感、および禁煙補助薬の副作用である消化器症状の改善を目的に、抑肝散加陳皮半夏エキス細粒（KB-83）の投与を行ったところ、自覚症状の消失がみられた。今回、POMSを用いて精神症状の推移と関連性を検討したが、抑肝散加陳皮半夏の併用により、その有用性が確認された。

Keywords 禁煙外来、禁煙補助薬（バレニクリン酒石酸塩）、イライラ感、気分プロフィール検査（POMS）、抑肝散加陳皮半夏

はじめに

タバコの煙の中には、全体で4,000種類以上の化学物質、約200種類の有害物質、40～60種類の発がん物質が含まれており¹⁾、喫煙が及ぼす健康への被害は呼吸器疾患、がん、循環器疾患にとどまらず、糖尿病、メタボリック症候群なども報告されている²⁾。また、社会情勢なども考慮し、禁煙を志す喫煙者が増加している。当院は禁煙外来を開設しているが、ニコチン離脱症状としてのイライラ感や禁煙補助薬、バレニクリン酒石酸塩（以下、禁煙補助薬）の副作用である消化器症状の出現によって、治療継続が困難となるケースが散見される。そこでイライラ感などの精神症状と悪心、嘔吐、食欲不振などの消化器症状の双方に効果が期待できる抑肝散加陳皮半夏を禁煙治療中の患者に投与し有効性を得ている³⁾。

今回は精神症状について自覚症状と併せ、気分プロフィール検査（Profile of Mood States：以下、POMS）を実施してきた5例の禁煙治療患者について、抑肝散加陳皮半夏の併用とPOMSの推移との関連性について検討を行った。

対象と方法

当院では禁煙外来を受診した患者には禁煙補助薬の処方と同時に抑肝散加陳皮半夏エキス細粒（KB-83）7.5g/日を処方し、イライラ感もしくは消化器症状（悪心、嘔吐、食欲不振）が出現した時点で患者の判断で服用を開始するよう指導している。

対象は2011年7月から2012年5月までに禁煙外来を受診した患者に同意を得たうえで、POMSを初診時、2週後、4週後に実施した。自覚症状としてイライラ感、食欲不振、悪心を高度、中等度、軽度、なしの4段階で初診時、2週後、

4週後に聴取した。そのうち精神症状のイライラ感を訴えた患者5例について検討を加えた。

POMSについて

65項目からなる質問紙法を用いて、人間の情動を心理学、行動学的側面からだけではなく、気分、感情、情緒といった主観的側面からアプローチする気分プロフィール検査である。

T-A（緊張－不安）、D（抑うつ－落ち込み）、A-H（怒り－敵意）、V（活気）、F（疲労）、C（混乱）の6つの尺度で測定される。精神病患者の心理療法や薬物療法の研究のみならず、薬物乱用・依存などさまざまな領域の研究に有用性が証明されている。正常値は表1のとおりである。

表1 POMS正常値

性別	T-A 緊張－不安	D 抑うつ－落ち込み	A-H 怒り－敵意	V 活気	F 疲労	C 混乱
男性	～17	～19	～18	9～	～15	～13
女性	～18	～20	～19	8～	～16	～13

結果

患者背景を表2に示す。

表2 患者背景

症例	性別	年齢 (歳)	抑肝散加陳皮半夏の 投与までの日数 (日)	喫煙歴 (年)	1日の 喫煙本数 (本)	プリンクマン 指数
1	男性	37	0	20	10	200
2	男性	37	0	21	30	630
3	女性	49	0	30	15	450
4	女性	57	7	37	40	1,480
5	女性	63	13	20	30	600
mean		48.6		25.6	25.0	672.0
SD		11.7		7.6	12.2	482.7

表3 POMS結果

症例	T-A 緊張-不安			D 抑うつ-落ち込み			A-H 怒り-敵意			V 活気			F 疲労			C 混乱		
	初診	2週後	4週後	初診	2週後	4週後	初診	2週後	4週後	初診	2週後	4週後	初診	2週後	4週後	初診	2週後	4週後
1	21	25	19	22	20	18	17	12	10	3	3	7	15	21	15	18	22	18
2	18	13	9	22	9	6	14	5	6	4	3	3	13	5	5	14	8	8
3	15	10	7	25	15	11	14	12	6	12	12	11	6	3	2	11	9	7
4	9	2	9	4	1	3	6	8	13	18	16	11	7	6	3	9	8	8
5	5	6	5	5	1	1	3	6	6	0	1	0	0	1	2	6	5	4
mean	13.6	11.2	9.8	15.6	9.2	7.8	10.8	8.6	8.2	7.4	7.0	6.4	8.2	7.2	5.4	11.6	10.4	9.0
SD	6.5	8.8	5.4	10.2	8.4	6.8	6.0	3.3	3.2	7.4	6.6	4.9	6.0	7.9	5.5	4.6	6.7	5.3

POMSの5例の結果およびmean±SDは表3に示す。

V(活気)以外の項目については週を追うごとに改善した(図1)。自覚症状は、症例1、3は2週目にイライラ感と悪心が軽度発現したが4週後には消失した。症例2、4は2週目にイライラ感が軽度発現したが4週後には消失した。症例5は2週目にイライラ感が中等度発現したが4週後には消失した。いずれの症例も4週後ではすべての自覚症状が消失した。

著明に改善した症例1(図2)および症例2(図3)をグラフで示す。症例1はA-H(怒り-敵意)以外のすべての項目が正常

範囲を超えていたが、D(抑うつ-落ち込み)は正常の範囲となり、他の項目も4週後では改善傾向を示した。症例2はA-H(怒り-敵意)とF(疲労)以外が正常範囲を超え、V(活気)については改善は無かったものの他の項目は改善した。

考察

抑肝散加陳皮半夏は肝気が昂ぶって興奮するもの、つまりイライラ感などを抑える抑肝散に陳皮と半夏を加えた処方⁴⁾、抑肝散の証に悪心、嘔吐など消化器症状を訴える患者に処方される。禁煙補助薬と抑肝散加陳皮半夏の併用の有用性についてはすでに報告しており³⁾、自覚症状は同様の結果となった。

今回は精神症状に対してPOMSを用いて検討したが、イライラ感が関係していると考えられるA-H(怒り-敵意)が改善したのは抑肝散加陳皮半夏の効果と考えられ、自覚症状の改善がそれを裏付けている。さらに他の項目も改善を示しているのは、抑肝散加陳皮半夏がイライラ感以外の精神症状にも効果が期待できることを示唆している。

まとめ

禁煙補助薬と抑肝散加陳皮半夏の併用の有用性についてはすでに報告しており、今回も同様の結果となった。

POMS検査で改善を認めたことは、前報の自覚所見での有用性判定に加え、抑肝散加陳皮半夏の精神神経症状に対する有用性を他覚的に確認ができたものと考えられる。禁煙外来において禁煙補助薬と抑肝散加陳皮半夏の併用は有用性が高い治療法と考えられる。

【参考文献】

- 1) 西耕一: 能動喫煙の健康影響, Modern Physician, 29 (12): 1704-1708, 2009.
- 2) 金本陽子 ほか: 禁煙外来の実際, 臨床と研究, 87 (6): 747-751, 2010.
- 3) 長谷章: 禁煙治療に伴うイライラ感および消化器症状に対する抑肝散加陳皮半夏の有用性, 医学と薬学, 66 (3): 529-533, 2011.
- 4) 高山宏世 編著: 腹証図解 漢方常用処方解説 (第49版), 219-222, 1988.

図1 POMS(平均)

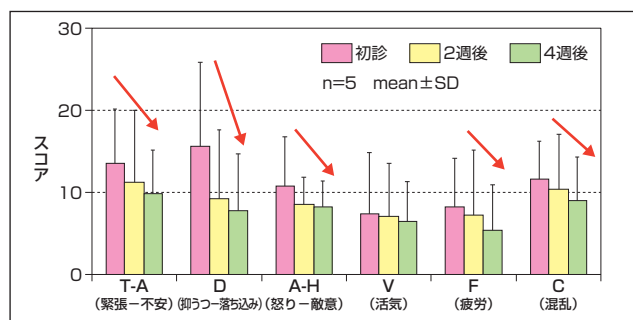


図2 症例1のPOMS

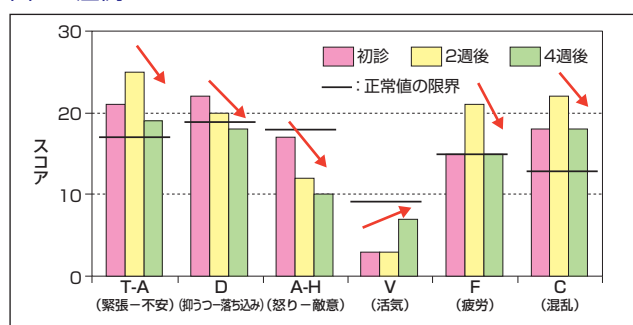


図3 症例2のPOMS

